

泌尿器科医になってみて part 2

泌尿器科の魅力についてお伝えする本誌、前回引き続き、今回もさまざまな現場で頑張っている先生方に、最初泌尿器科に惹かれたポイント、これまでの印象的な経験などを中心に、自由な感じでそれぞれの思いをつづっていただきました。

We are urologists

山口大学附属病院泌尿器科 徳永貴範

「外科系に興味がありません」。研修医になり進路を決定するまでよく唱えてきた言葉です。それが「泌尿器科もいいな」と思ったのは、学生実習で訳もわからないまま尿管ステント交換のお手伝いをさせて頂いた時でした。授業で習ったように滅菌手袋をはめ、ガイドワイヤに水を通し、透視画面を見ながら言われたとおりには腎盂まで上げていき・・・。そんな今では当たり前のような日常も、とても新鮮でワクワクしたことを覚えていきます。

研修医になって、様々な科を主体的にローテーションする中で、指導医の先生方に恵まれたこともあり、どの科を回っても楽しくて仕方ありませんでした。消化器内科の上部・下部内視鏡検査、循環器内科のカテーテル治療、麻酔・救急科での挿

管・ライン・カテーテル挿入や心エコーによるEKG管理、外科の縫合や腹腔鏡手術、整形外科の人工関節や肩関節内視鏡手術・・・あげるときりがなくいろいろな経験をさせて頂きました。

「せっかくなので進路を考えてみたときに、泌尿器科がまた頭に浮かびました。膀胱鏡、尿管ステント、シャント血管PTA、

周術期管理、腹腔鏡やロボット手術 TUR&HoLEP・・・その他にも移植や不妊治療までたくさんワクワクする治療が泌尿器科にはたくさんあるのです。

そして泌尿器科の最大の魅力は、あたたかい集団であるということです。

現在私は山口大学泌尿器科に入局し8カ月が経とうとしています。松山教授をはじめ、先輩の先生方から一つ一つ熱心なご指導を頂き、手術の執刀もさせて頂いておりま

す。お陰様で楽しく充実した毎日を送っています。地方大学ですが若手の入局者も多く、活気のある医局です。

先日11月末には当大学が主幹の第68回西日本泌尿器科学会総会を下記にて無事に開催することができました。全国からたくさんの方々をお迎えすることができ、我々一同感謝の気持ちでいっぱい

です。研修時代にお世話になった先生方からもたくさんお声をかけて頂き、泌尿器科医のつながりやあたたかさを感じました。改めて泌尿器科医になってよかったですと思

ております。このように泌尿器科は大変魅力のある分野であり、今後一人でも多くの後輩Urologistsと共に、楽しく盛り上げていきたいです。

私の泌尿器科入局、退局、そして再入局への変遷

山口大学附属病院泌尿器科 松本祐一

まずは私の医師を目指した理由、泌尿器科を目指した理由について述べていきます。

私は家族性腎疾患を持つ家庭で育ち、小さいころから透析に通う祖母や親戚を見ながら透析管理ができる医師になろう、できることならば家族性腎疾患を治療したいと考え

ておりました。大学に進学後、家族性腎疾患は発生の際に起こるため根本的治療は難しいことを知り、治療は透析・腎移植があることを大学の講義で知りました。自分の家族性腎疾患について話し、両親はその病院で腎移植を受けることになりました。

移植後外来通院している元気になった母をみて私は腎移植を専門にしたいと強く思うようになりました。腎移植を行うのは泌尿器科だけではないことを知りました。泌尿器科か外科か、という選択肢です。尿路系ト

ブルの際に泌尿器科の方がよいと考え泌尿器科を選択しました。術後の尿管吻合ト

ています。私は最初、出身大学の医局に属そうと考えていました。母の移植を行った若手医師から東京女子医科大学が全国で有数の腎移植数を占めていて紹介してあげるから勉強してきてはどうかと言われ、東京女子医科大学を後期研修に決めました。3年間多くの症例をみさせて

いただいたおりましたが、母の移植した病院の先生の目が悪くなった(老眼?)から手伝いに来てくれな

いかと話がきて、わたしは後期研修の途中で退局し四国の病院へ赴任しました。四国に赴任してからたくさんさんの腎不全症例をみることで満足して

おりました。しかしながら専門医試験の資格がないことについてだんだん焦りが出てきて上司に相談した結果、上司の元同僚の勤務する実家の近くの病院をすすめられ

ました。その病院は山口大学の関連病院であったため本院勤務、再入局となりました。2016年9月専門医試験を合格し、

いままです不安であった小児や排尿障害の症例も経験できて大学病院勤務に満足しております。

ここ数年の勤務を振り返って考えることについて。私は複数の大学入局し、小さなことは違いますが大きな方針は基本的に同じであることを学びました。

症例数が多い施設であるほど高度なことをしているわけではなく基本を大切にしていることを学びました。少ない症例数でも準備をたくさんしていれば助手の立場では得るものは変わらないと考

えます。逆に症例が多すぎると一例一例に対して消化不良になっていくことが振り返ってみると感じられました。私は良い研修のために関東のEgami centerへ行きましたが、地方大学で研修が劣っていると感じてお

りません。むしろ症例に向き合う時間が多く良い刺激になってい

ると感じています。大学病院医局に属したり、医局外病院へ勤務したりとふらふらしてお

りますが、「患者のために身を粉にして頑張る」ことがどこへ行っても大切なことだと考えております。

こつこつ頑張れば、どこか誰かが認めてくれると信じ日々精進してまいります。

泌尿器科医について本気出して考えてみたら・・・

松江赤十字病院泌尿器科・副腎外科 西川涼馬

泌尿器科医として働き始めて1年半が経ち、少しずつ分かってきたことがあります。泌尿器科は御存知の通り内科的疾患、

悪性疾患、終末期医療、移植医療など幅広い分野を扱いますが、わかってきたことというのは、泌尿器科医はそれぞれの患者さんに対して同じ発想で接してはいけないということ

です。例えば、前立腺肥大症や尿管結石の患者さんと接するときと前立腺癌や腎癌などの悪性腫瘍の患者さんと接するときでは、考え方や診療の姿勢を変える必要があります。それはガイドライン云々とは別の話です。ベテランの泌尿器科医の先輩方にとっては当たり前のことですが、自分にとってはようやく気が付き始めた、しかし大事なことです。そのことに気付いたとき、これまで自分が泌尿器科医として接してきた患者さんを思い返し、形式的な対応で不十分なコミュニケーションをしていたのだと反省することが多いです。「医者

は医者である」という方もおられます。色々な顔を持つ必要性が高

い泌尿器科医は、より役者であることを意識しなければいけないのかもしれないと

感じています。医者であり役者であり紳士であることは難しいことです。しかし、こんなことを考えられる泌尿器科医って面白いですよ。

私と泌尿器科との出会い

鳥取大学 泌尿器科 木村 有佑

私の泌尿器科との出会いは今から7年前の大学4年生の時に、研究室配属で大分大学の泌尿器科でお世話になったことが始まりでした。確か尿道括

約筋についての研究を発表した記憶があります。それから5年生のポリクリで2週間過ごし、6年生の選択ポリクリで4週間まわりました。なぜ泌尿器科か？言われれば今でも「よくわかりません」、

ですが、泌尿器科の手術を見学して、「自分にはこの科しかない！」とこの時から決めていました。その後、卒業後の進路として地元鳥取に帰るか、大分に残るか迷っており

ました。そんな折、夏休みに鳥取大学泌尿器科に見学に行かせていただいたことをきっかけに、顔を覚えていただきました。その後鳥取大学泌尿器科武中教授が大分まで講演にお越しいただき、その晩大分大学泌尿器科教授三股先生と武中教授、

私の三人で食事会となりました。そこで硬い握手を交わし、私の進路は決まりました。その年6年生の選択ポリクリで泌尿器科を選択していたのは、私ともう一人の二人しかおらず、三股先生には「この裏切り者(笑)」と言われながらも、暖かく贈っていただいたことを覚えていきます。現在鳥取大学泌尿器科で泌尿器科医3年目を迎えます。忙しい毎日ですが、泌尿器科の道に入ったことは後悔していません!

泌尿器科に入局して。鳥根大学医学部附属病院泌尿器科 永見太一

僕が泌尿器科に入局して4年が経過しようとしております。

ます。逆に症例が多すぎると一例一例に対して消化不良になっていくことが振り返ってみると感じられました。私は良い研修のために関東のEgami centerへ行きましたが、地方大学で研修が劣っていると感じてお

りません。むしろ症例に向き合う時間が多く良い刺激になってい

ると感じています。大学病院医局に属したり、医局外病院へ勤務したりとふらふらしてお

りますが、「患者のために身を粉にして頑張る」ことがどこへ行っても大切なことだと考えております。

こつこつ頑張れば、どこか誰かが認めてくれると信じ日々精進してまいります。

泌尿器科医について本気出して考えてみたら・・・

松江赤十字病院泌尿器科・副腎外科 西川涼馬

泌尿器科医として働き始めて1年半が経ち、少しずつ分かってきたことがあります。泌尿器科は御存知の通り内科的疾患、

悪性疾患、終末期医療、移植医療など幅広い分野を扱いますが、わかってきたことというのは、泌尿器科医はそれぞれの患者さんに対して同じ発想で接してはいけないということ

です。例えば、前立腺肥大症や尿管結石の患者さんと接するときと前立腺癌や腎癌などの悪性腫瘍の患者さんと接するときでは、考え方や診療の姿勢を変える必要があります。それはガイドライン云々とは別の話です。ベテランの泌尿器科医の先輩方にとっては当たり前のことですが、自分にとってはようやく気が付き始めた、しかし大事なことです。そのことに気付いたとき、これまで自分が泌尿器科医として接してきた患者さんを思い返し、形式的な対応で不十分なコミュニケーションをしていたのだと反省することが多いです。「医者

は医者である」という方もおられます。色々な顔を持つ必要性が高

い泌尿器科医は、より役者であることを意識しなければいけないのかもしれないと

感じています。医者であり役者であり紳士であることは難しいことです。しかし、こんなことを考えられる泌尿器科医って面白いですよ。

私と泌尿器科との出会い

鳥取大学 泌尿器科 木村 有佑

私の泌尿器科との出会いは今から7年前の大学4年生の時に、研究室配属で大分大学の泌尿器科でお世話になったことが始まりでした。確か尿道括

約筋についての研究を発表した記憶があります。それから5年生のポリクリで2週間過ごし、6年生の選択ポリクリで4週間まわりました。なぜ泌尿器科か？言われれば今でも「よくわかりません」、

ですが、泌尿器科の手術を見学して、「自分にはこの科しかない！」とこの時から決めていました。その後、卒業後の進路として地元鳥取に帰るか、大分に残るか迷っており

ました。そんな折、夏休みに鳥取大学泌尿器科に見学に行かせていただいたことをきっかけに、顔を覚えていただきました。その後鳥取大学泌尿器科武中教授が大分まで講演にお越しいただき、その晩大分大学泌尿器科教授三股先生と武中教授、

私の三人で食事会となりました。そこで硬い握手を交わし、私の進路は決まりました。その年6年生の選択ポリクリで泌尿器科を選択していたのは、私ともう一人の二人しかおらず、三股先生には「この裏切り者(笑)」と言われながらも、暖かく贈っていただいたことを覚えていきます。現在鳥取大学泌尿器科で泌尿器科医3年目を迎えます。忙しい毎日ですが、泌尿器科の道に入ったことは後悔していません!

泌尿器科に入局して。鳥根大学医学部附属病院泌尿器科 永見太一

僕が泌尿器科に入局して4年が経過しようとしております。



カンファレンス風景



外科的疾患、良性疾患、一読んだとあるアメリカ人



木村先生
2015年AUA ニューオリンズの
ミシシッピ川のほとり

研修医2年目、腹部の外
科を目指していた僕は専
門科を選択する際に泌尿
器科と消化器外科と産婦
人科で迷っていました。
奇しくも2012年、当科は椎
名教授が就任され、ロボッ
ト支援腹腔鏡下前立腺摘
除術が開始となり、今後
の展望に大きな期待をもつ
て泌尿器科を専門科とし
て選択しました。入局後
から今に至り、腎・泌尿
器科領域の癌治療は腎
癌の分子標的治療、前立
腺癌の新規ホルモン薬、
免疫チェックポイント阻
害薬と相次ぐ新規治療の
導入、外科領域でのロボッ
ト支援手術の適応拡大な
ど急速な進化を遂げてい
ます。新しい治療自分の
担当者様と歩んでいく
責任とやりがいを感じて
充実した日々を過ごさせ
ていただいております。
学生のころは研修期間も

短く、試験内容も少ない
泌尿器科ですが実臨床は
大きく異なり、開腹手術、
腹腔鏡手術、経尿道的手
術、抗癌剤治療、感染症
治療、免疫疾患、腎移植・
透析含め腎不全、排尿障
害、先天性疾患、尿路結
石、男性不妊・・・など
診断、治療まで幅広くカ
バーし、医学生から初期
研修までやってきた勉強
がすべて無駄になりませ
ん。器用・不器用や好み
は人それぞれではありません
が、泌尿器科であれば
必ずあなたにあった医者
人生を送ることが出来る
でしょう。初期研修での
必須選択科ではありません
ですが、まずは泌尿器科を
選択して広大に広がる泌
尿器科領域を味わって見
てください。お待ちしております
おります。



島根大学医局のカンファレンス風景

島根大学にきてみて

島根大学医学部附属病院 泌尿器科 中西雄亮

私は泌尿器科医5年目で、
昨年、専門医を取得しま
した。
昨年までは東京都大田区
にある東邦大学医療セン
ター大森病院泌尿器科の
所属でしたが、医局間の
人事交流で今年の2016年よ
り島根大学医学部附属病
院に所属し働いております。



da Vinci チーム



初めは東京からの移住に
不安もありましたが、住
めば都といいますが、近
くのショッピングモール
で大概のものは揃えられ
生活に関しては特に不便
することはあまりないで
す。東京のような皆があ
くせくした感じはなく、
自然に囲まれ、通勤時に
はトンボの群れの中を通
り、蛙の鳴き声を聞きな
がら帰宅することは、都
会育ちの自分としては新



鮮に感じます。
患者さんやコメディカル
の方も温かく、医療を取
り巻く環境は都会とは大
分違うと思います。いわ
ゆる、夜間の救急外来の
コンビニ受診のようなも
のありません。島根は
方言がきつく、初めは聞
き取れないよ、とみなか
ら脅されていましたが、
自分は父が島根県出身と
いうこともあってか患者
さんのコミュニケーション
で特に困ったことはあ
りませんでした。
観光場所も多く、やはり
出雲大社、玉造温泉を始
め、日本最古の歴史書と
言われる古事記の舞台と
関連した場所も多くあり、
休日にドライブに行く場
所も事欠きません。
最後になりますが、泌尿
器科は内科的な管理も外
科的な手技もあり、働く
場所が違っても能力を発
揮することができます。
みなさんもぜひ泌尿器科
に来て下さい。

「魅力的な科である 泌尿器科」

川崎医科大学 泌尿器科 中塚 騰太（後期研修1 年目）

平成28年度より川崎医

科大学泌尿器科に入局し
ました、シニアレジデント
1年目の中塚騰太です。
様々な症例、多岐にわた
る手術を日々経験し、楽
しく充実した生活を送つ
ています。
学生の頃にさかのぼりま
すが、私も周りの友達と
同様にどの科にいくか
迷っていました。友達は
ざっくり外科系、内科系
と言っていたりしている
一方で、私は循環器内科、
腎臓内科、整形外科、麻
酔科、皮膚科などなど内
科も外科もマイナー科も
これといった共通のもの
もなく、決まった方向性
もなくこの科にいくか
迷っていました。それは
どこの科にも良いところ
があつて、学生ながらざつ
くり思っていたのは、内
科のように全身状態を把
握して薬を調節できるよ
うになりたかったり、外
科のように手を動かせる
ようになりたかったりし
ていたからでした。
どっちつかず、はっきり
しない中途半端な状態は
続き、そんな時、患者さ
んの訴えを優しく聞いて
いる泌尿器科医の姿に出
会い、興味を持ち始めま
した。その先生だけでな
く、泌尿器科の先生は患
者さんに優しい人が圧倒
的に多いと思います。そ
れぞれの患者さんのコン
に合せて治療を選択し
ていくことも多いからな
のか、なぜか優しく面白
い人が多いところだと思
いました。優しく面白い
医師といったところから
泌尿器科に興味を持ち始
め、泌尿器科がどのよう
なところか意識してみ
ていくようになりました。
泌尿器科は、癌、感染症



排尿障害、性功能、尿
結石など多岐にわたる分
野があり、内科的・外科
的なアプローチができる
なってからでも、どんな
分野でどのようなスタイ
ルでやっていくのか今後
の将来の選択肢の幅が広
いところだと感じました。
泌尿器科には自分が専門
にしたい分野をこれから
選んでいける魅力がある
と思います。きっと将来
自分の専門にしたい分野
と必ずめぐり会えるところ
だと実感しています。
また泌尿器科は手術や処
置、病棟管理と日中はあ
る程度の忙しさはあるも
のの、緊急を要する手術
や処置が少なくon-call
がはっきりしています。
忙しい科でも楽しんで仕
事ができると思つていて
も、今後何年かしたとき
に自分がどんなライフス
タイルを送っていきたい
か、その時その時で変化
もあると思います。その
時にある程度自分の時間
を作りやすい、融通の利
く科である泌尿器科に入
局を決めました。
現在は泌尿器科なりたて
で、日々多くの症例や手
技等、勉強することは山

ほどありますが、同時に
泌尿器科の面白さも日ご
とに感じるようになって
います。外来では、排尿
感染症、性功能、癌など
様々な患者さんが来ます
し、手術では、包茎手術
から経尿道的手術、腹腔
鏡手術など様々な種類の
手術を目の当たりにし、
やはり幅の広い科である
などあらためて思えます

し、自分が泌尿器科を選
んだことは間違いないと
実感できています。
これからも楽しみながら
自分が成長できるように
頑張っていきたいと思
いますし、また以前の私
のように診療科を迷って
いる人たちが泌尿器科の
魅力を感じてくれること
を心待ちにしております。

